

手間いらず 秋まき小麦の基肥一発施肥法

概要 Abstract

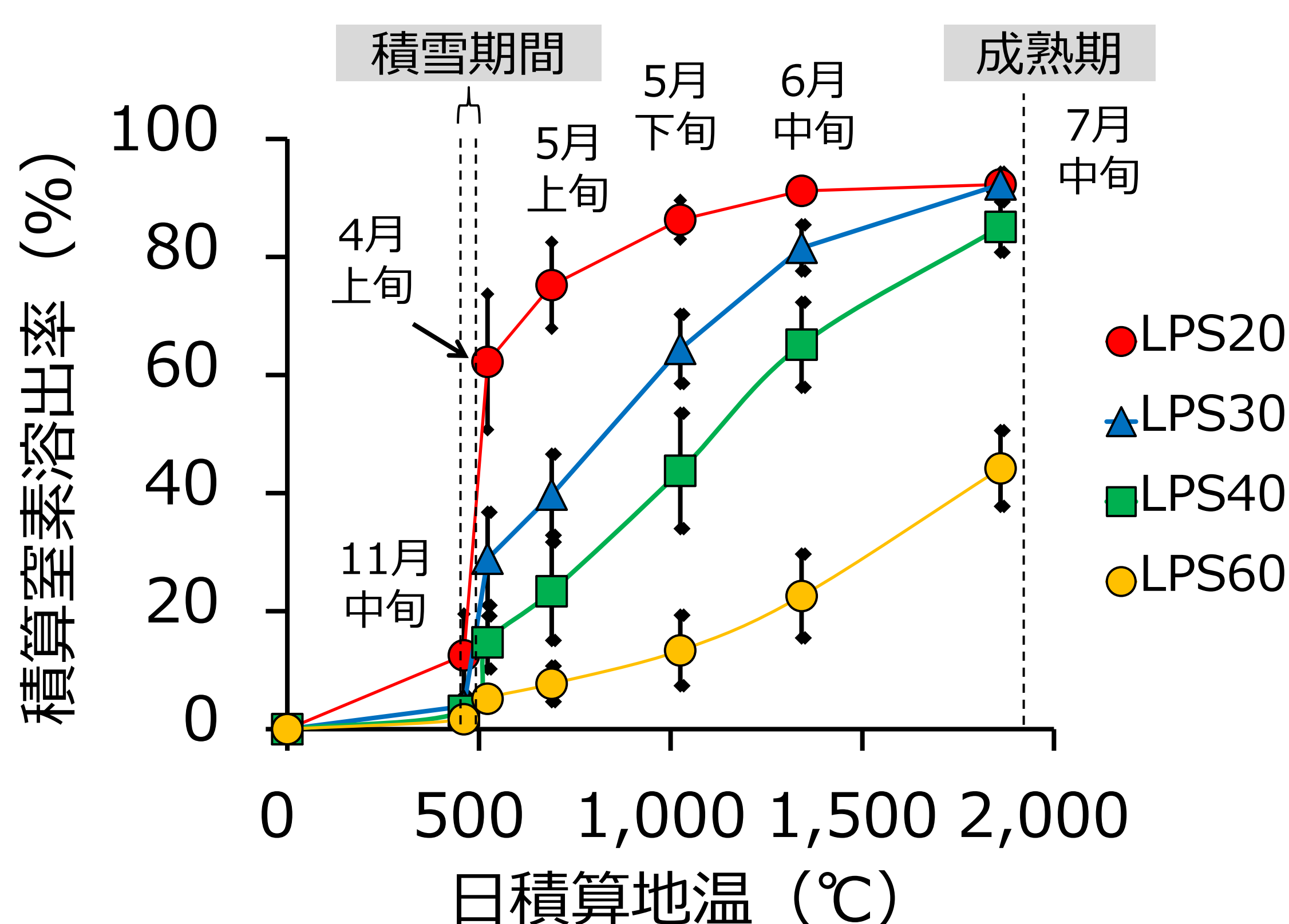
秋まき小麦に対して追肥を一切行わない「基肥一発施肥法」を確立しました。

成果 Results

1 肥効調節型肥料の窒素溶出

被覆尿素肥料シグモイド型30日タイプ（LPS30*）、同40日タイプ（LPS40）は、積雪期間以降に多く溶出し、小麦成熟期までに全体の80%以上が溶出します。

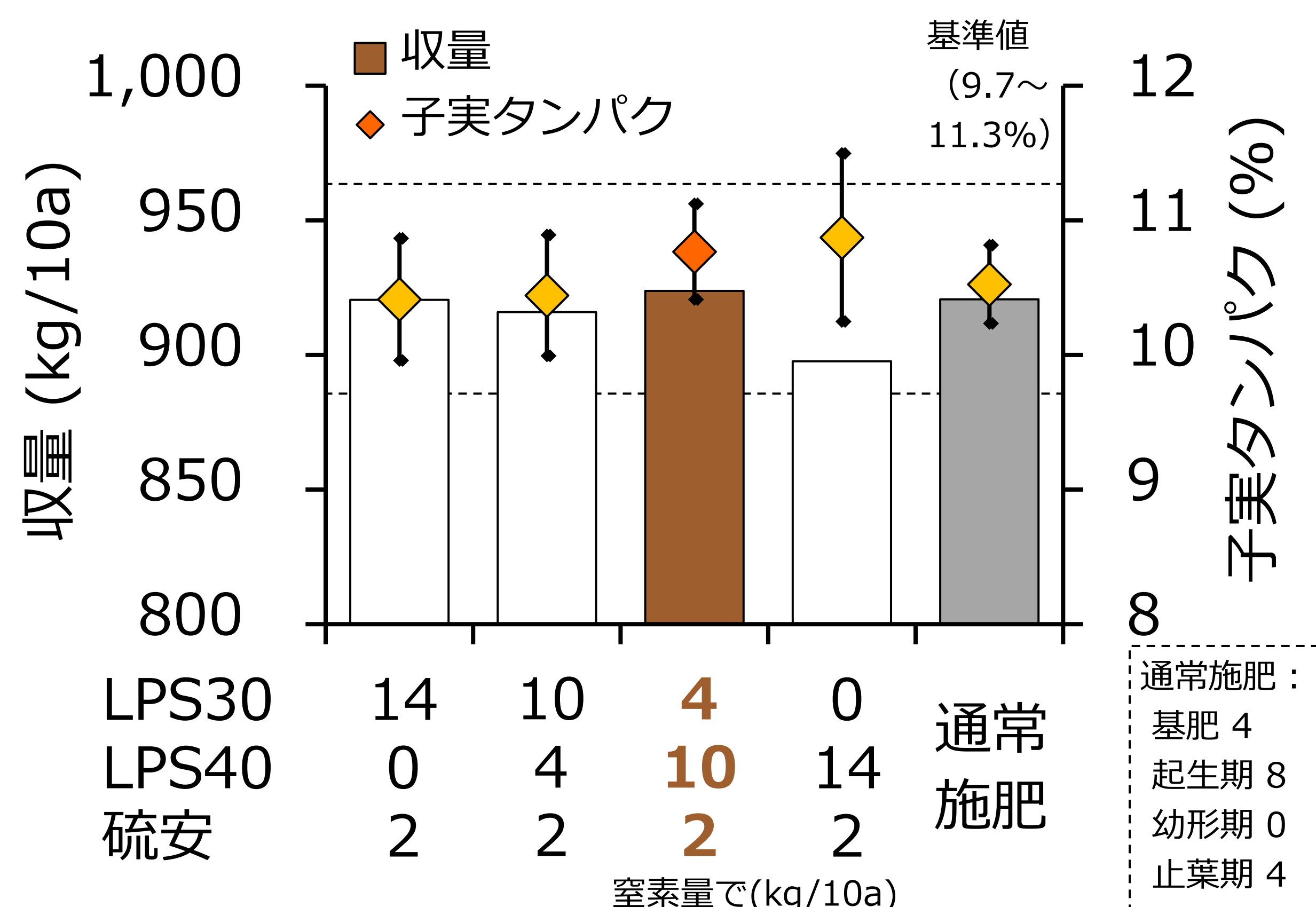
* LPS●：被覆尿素肥料LPコート®・シグモイド型●日タイプ



2 基肥一発施肥法の肥料配合

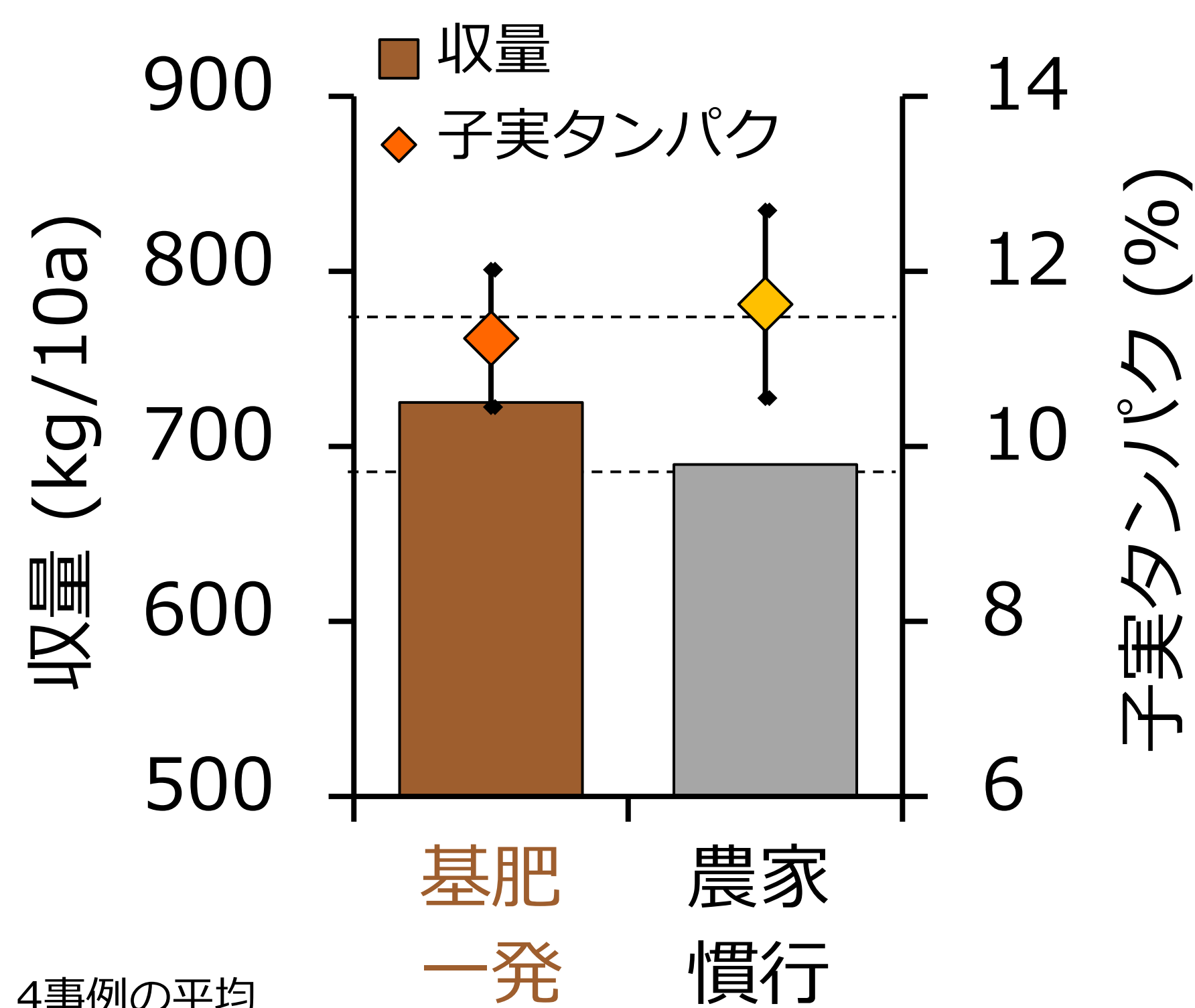
LPS30、LPS40、硫安を窒素量で

「4 kg/10a : 10 kg/10a : 2 kg/10a」の割合で施肥すると、安定した収量・子実タンパクが得られます。



3 基肥一発施肥法の有効性

基肥一発施肥専用肥料**で農家慣行施肥と同等の収量・子実タンパクが得られます。



4事例の平均

4 基肥一発施肥法の導入指針

基肥一発施肥法は、追肥の省力化を最優先する場合に活用できます。

技術選択のための効果の比較			基肥一発施肥法 基本事項
項目 (効果)	窒素施肥法		●初期生育の確保に努める 適期・適量播種、出芽安定化
	通常施肥法	基肥一発施肥法	
1 労力の軽減	小	大	基肥一発施肥法 留意事項
追肥回数	2~4回程度	0回	●以下の条件では適用を控える ・泥炭土 ・起生期が遅く低温で経過する気象（窒素供給の遅れに伴う生育の遅れ） ・「きたほなみ」以外の品種 ※他品種への適用は事前に検討が必要
2 収量・品質の安定性	高	やや低	
窒素追肥調整	生育診断・土壌診断対応	なし	
3 費用 (コスト) の抑制	大	小	●途中の施肥対応は行わない (タンパク基準値超過)
●基肥一発施肥法の導入は経営の一部に限定 (収量・品質変動に伴う経営安定性低下回避)			

普及 Dissemination

** BB050CuLS (LPS30、LPS40、硫安（アンモニア態）が窒素量で4：10：2の割合で配合)

- ◆総窒素施肥量は、過去の生産実績等に基づいて適正に決めてください。
- ◆道東地域以外で適用する場合は、事前に栽培試験等で検討してください。

●本成果はジェイカムアグリ株式会社との共同研究による。

連絡先 Contact

北見農業試験場
研究部 生産環境グループ
0157-47-2146
kitami-agri@hro.or.jp